B 62　コンピューターグラフィックスによるチェック柄の被服への応用

日本女大家政　○小口　登

目的　従来は柄付けされた布（織物・メリヤス）を出発点として，それに適した被服が設計・製作されているのが普通であり，消費者は店頭で柄を選んだ。しかし消費者の立場に立てば，逆に被服上に柄付けして見て評価し，所望の柄の布を作り，それによる被服をつくることができれば，これが真に消費者主体性が実現したことになるが，これは商品リスクが大きく実現困難である。その困難性はコストと時間である。この困難性を克服するため，本研究では，コンピューターグラフィックスにより柄を求め，写真撮影操作の繰り返へしによりその柄の布によるアパレルとしてのイメージを把握するプロセスを確立し，チェック柄を中心に柄の被服上評価を行うことを目的とした。

方法　チェック柄を経糸・緯糸の色糸の巾と間隔の関数として一般化し，糸の色と関数及び関数のパラメータを変化させることによりコンピューターグラフィックス手法を用いて多様化し，様々のチェック柄を画かせ，これを撮影し，多数重ね合せたり並べ替えたりして図案化し，被服スクリーンに投影し，撮影・投影を繰り返へしてチェック柄による被服写真を合成する。

結果　従来の柄付き布（テキスタイルデザイン）から出発してアパレルへイメージを想像するプロセスから，アパレル上で直接柄のイメージを評価できることが可能であり，一般化されたチェック柄には伝統に見られない珍らしいものも創出できた。